

英 語

1 全般的事項に関する質疑応答

問1 英語科における各科目の構成及び特徴は何か。

英語科の科目は、「総合英語Ⅰ」、「総合英語Ⅱ」及び「総合英語Ⅲ」（以下「総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」という。）、「ディベート・ディスカッションⅠ」及び「ディベート・ディスカッションⅡ」（以下「ディベート・ディスカッションⅠ・Ⅱ」という。）、「エッセイライティングⅠ」及び「エッセイライティングⅡ」（以下「エッセイライティングⅠ・Ⅱ」という。）が設定されており、そのうち「総合英語Ⅰ」及び「ディベート・ディスカッションⅠ」が必修科目となっている。

「総合英語Ⅰ」及び「総合英語Ⅱ」における学習内容は、基本的には「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の内容に準じているが、本科目が専門教科に属する科目であることを踏まえ、より自律的に学習することを目指し、「英語コミュニケーションⅠ」及び「英語コミュニケーションⅡ」より少ない支援を活用して、専門科目としてふさわしい内容を取り扱うことが求められる。「総合英語Ⅲ」については、「英語コミュニケーションⅢ」を発展させた内容となっている。

「ディベート・ディスカッションⅠ・Ⅱ」においては、特に「話すこと〔やり取り〕」の力及び論理的な思考力や表現力の育成を強化する指導を行い、「エッセイライティングⅠ・Ⅱ」では、特に複数の段落からなる文章を書くことなどを中心とした「書くこと」の力及び論理的な思考力や表現力の育成を強化する指導を行う。

なお、「ディベート・ディスカッションⅠ・Ⅱ」及び「エッセイライティングⅠ・Ⅱ」の学習内容については、「論理・表現Ⅰ」及び「論理・表現Ⅱ」の内容を参照した上で、専門科目としてふさわしい内容を取り扱うことが求められる。

問2 各科目の言語活動における留意点は何か。

前回の学習指導要領の改訂に引き続き、各科目においては「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること」としている。これは、生徒の多様な実態に配慮しながら、生徒の豊富な英語使用を促し、英語による言語活動を行うことを授業の中心とすることを示したものである。

言語活動においては、各科目の目標に示されている支援の程度を踏まえ、どのような配慮があれば課題を遂行できるかなどを考慮し、生徒に学習上の様々な配慮を行うことが必要である。例えば、「聞くこと」であれば、話す速度を落としたり、一度にたくさんの情報を伝えるのではなく分けて伝えたりすることが考えられる。

また、中学校の外国語科において、複数の領域を関連付ける統合的な言語活動を視野

に入れた目標が設定されているが、高等学校においては、こうした統合的な言語活動を一層重視した目標設定がなされていることに留意する必要がある。具体的には、「総合英語Ⅰ」において「聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。」「また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。」などのように、一つの領域を他の領域と結び付けた統合的な言語活動が例示されている。

実際の授業においては、このような例示を参考としながら、指導の過程において生徒が複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を行えるようにすることが必要である。

問3 英語科の領域別の目標及び言語活動それぞれにおける支援の留意点は何か。

生徒の英語によるコミュニケーションの能力の向上に従って、実際のコミュニケーションで必要になる前提条件は少なくなってくることから、「総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「ディベート・ディスカッションⅠ・Ⅱ」、「エッセイライティングⅠ・Ⅱ」において、各科目の段階がⅠからⅡあるいはⅢに上がるにつれて、より少ない支援を活用して目標を達成するよう規定されている。具体的には、「総合英語Ⅰ」、「ディベート・ディスカッションⅠ」及び「エッセイライティングⅠ」では「一定の支援を活用すれば」、「総合英語Ⅱ・Ⅲ」、「ディベート・ディスカッションⅡ」及び「エッセイライティングⅡ」では「支援をほとんど活用しなくても」とし、教師により段階的に指導上の配慮を調整する必要があることが示されている。

また、英語科の全科目が、専門教科に属する科目であることを踏まえ、中学校における学習内容との接続に留意した「多くの支援」を必要とする科目を創設していない。しかし、実際には多様な生徒が存在することを踏まえ、基礎的・基本的な知識や技能の習熟に資するよう、必要に応じた様々な配慮をしながら段階的に指導することが重要である。

問4 英語科の科目における履修上の留意点は何か。

「総合英語Ⅱ」は、「総合英語Ⅰ」又は外国語科の科目である「英語コミュニケーションⅠ」を履修した後に履修させることを原則としており、「総合英語Ⅰ」又は「英語コミュニケーションⅠ」で育成したコミュニケーションを図る資質・能力を一層伸ばすことをねらいとしている。また、「総合英語Ⅲ」は、原則的として「総合英語Ⅱ」を履修した後に履修させることとなっている。「ディベート・ディスカッションⅡ」は、「話すこと[やり取り]」を中心とした言語活動を発展的に行うことをねらいとして、「ディベート・ディスカッションⅠ」を履修した後に履修させることを原則としており、「エッセイライティングⅡ」は、原則として「エッセイライティングⅠ」を履修した後に履修させることとなっている。

なお、「総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、「ディベート・ディスカッションⅠ・Ⅱ」及び「エッセイライティングⅠ・Ⅱ」と並行履修させることが可能である。